

# 漢語方言における指示代名詞 — 声母による分類とその地理的分布 —

人間社会環境研究科 人間社会環境学専攻

陳 怡 君

## 要旨

指示代名詞は事物、場所、方角などを指し示すのに用いる基本語彙であり、話者の空間、及び距離の概念を反映することができる。本稿では現代漢語方言における事物を指す指示代名詞を声母によって分類し、その分布状況を地図上で確認し、それらと上古漢語における指示代名詞の声母を対照することによって、漢語方言の中に残る歴史的変遷の跡を確認する。Lyons (1977) は、一般に人称代名詞が歴史的に指示代名詞から変化すると述べているが、中国語については言及されていない。本稿では漢語方言について、人称代名詞の地図を作成し、指示代名詞の地図と合わせて検討することにより、人称代名詞と指示代名詞の関係を明らかにするための素材を提供したい。

## キーワード

指示代名詞, 漢語方言, 方言地理学

## Demonstrative Pronouns in Chinese Dialects: Observations from the Geographical Distribution of Classification by Initials

CHEN I-Chun

## Abstract

The demonstrative pronoun is a basic vocabulary category used for indicating a thing, a place, a direction, and can reflect a speaker's concept of space and distance.

Lyons (1977) claims that personal pronouns, in general, evolved from demonstrative pronouns. However, this hypothesis has not been proven for Chinese.

In this study, I examine the historical changes of demonstrative pronouns, as reflected in present-day Chinese dialects by mapping the distribution of their forms. A syllable initial consonant based analysis is introduced to classify the forms of demonstrative pronouns. I also compare them with the types of the Old Chinese demonstrative pronouns.

This study also offers new materials to clarify the relationship between personal

pronouns and demonstrative pronouns. For this purpose, I create a map of 3rd personal pronouns, and compare it with these maps for demonstrative pronouns.

### Key Words

Demonstrative pronouns, Chinese Dialect, Dialect Geography

## 1. 目的

指示代名詞は事物、場所、方角などを指し示すのに用いる基本語彙であり、話者の空間、及び距離の概念を反映することができる。本稿では現代漢語方言における事物を指す指示代名詞を声母によって分類し、その分布状況を地図上で確認し、それらと上古漢語における指示代名詞の声母を対照することによって、漢語方言の中に残る歴史的変遷の跡を確認する。Lyons (1977:669) は、一般に人称代名詞が歴史的に指示代名詞から変化すると述べているが、中国語については言及されていない。本稿では漢語方言について、人称代名詞の地図を作成し、指示代名詞の地図と合わせて検討することにより、人称代名詞と指示代名詞の関係を明らかにするための素材を提供したい。

なお本稿の地図作成については金沢大学人間社会環境研究科博士後期課程在籍中の林智氏が開発したPHD systemを使用した。

## 2. 語形の分類方法

漢語方言における指示代名詞の種類は非常に多く、また語源を特定できないものも多いため、漢字表記に頼った分類は事実上不可能である。本稿では声母に着目した分類を提示する。漢語方言では、韻母、声調に比べて声母が比較的安定しており、歴史的変化を蒙りにくいことが知られているからである。なお、漢語方言では近称の他に二種類の遠称を持つ方言もあるが、多くの方言は二分法であることから、本稿では、遠称の二種類は語形の違いとして扱う。この問題については、今後の課題としたい。

[地図Ⅰ] は近称代名詞、[地図Ⅱ] は遠称代名詞の地図である。[地図Ⅰ]、[地図Ⅱ] では、声母の発音部位によって各々5グループに分類した。両地図で、(A) n/l系、(B) 唇音系、(C) 牙喉音系、(D) 零声母系は共通するが、第5グループ、つまり近称の(E) 舌齒音系と遠称の(E)「兀」系が異なる。

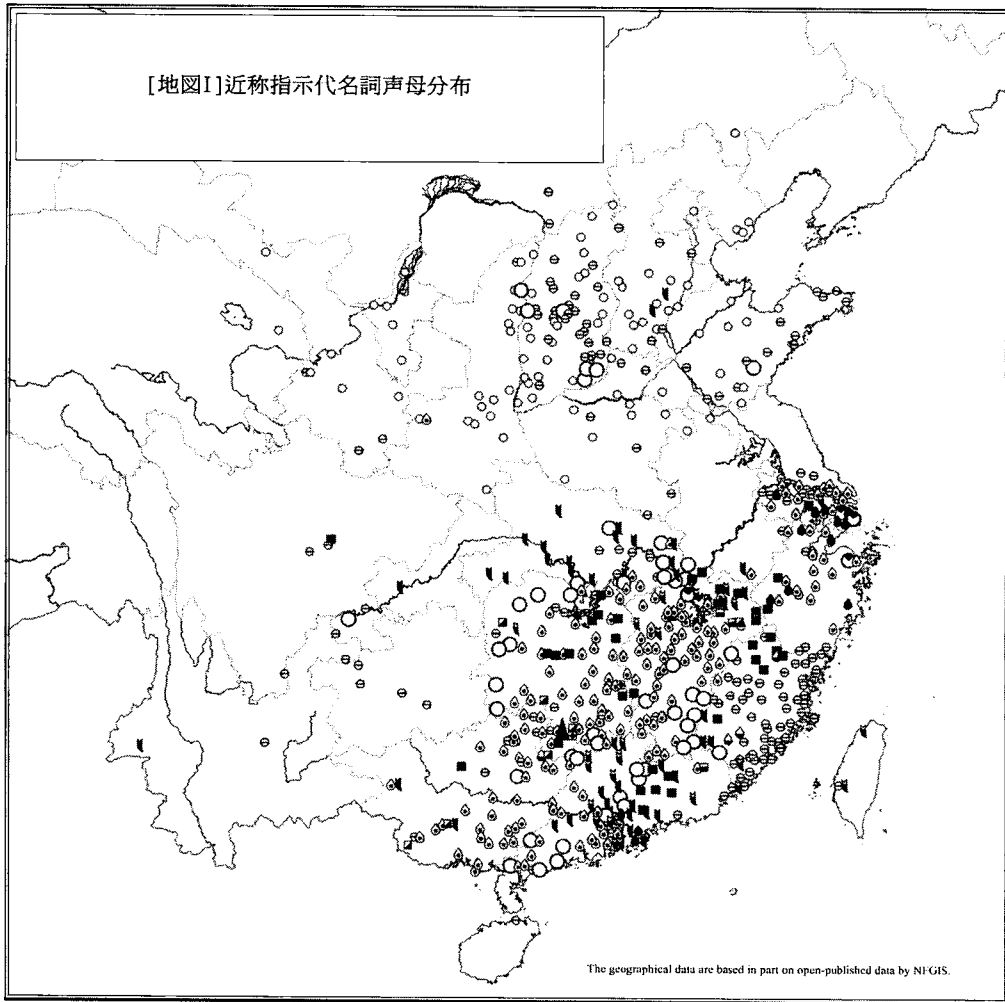
[地図Ⅲ] は近称と遠称の声母をペアとして表した類型地図である。近称と遠称では、近称の方により整然とした分布が現われることから、まず近称代名詞の声母に基づいて4グループに分類し、更に遠称代名詞の声母によって細分した。詳しい分類、及び例は[表一]に示す。

[地図Ⅳ] は三人称代名詞の声母の分布である。石崎博志先生(琉球大学)、張盛開先生他多くの方々によって入力され、PHDシステムに蓄積された言語データを基礎しているが、今回筆者が大量のデータ(特に音声情報)を補充した。これまでデータ入力を担われた先生方に感謝の意を表す。

## 3. 地理的分布の特徴

[地図Ⅰ] と [地図Ⅱ] では、長江を境界線として、南北対立の分布が見られる。

北方方言は均質であり、「近称：舌齒音系 / 遠称：n/l-系」のタイプが広範に分布している。これは類型を表す[地図Ⅲ]のA-1タイプに相当する。但し、遠称では山西省や陝西省に「兀」系が分布しているのが注目される。この「兀」は福建省北部にもまとまって分布し、他の系統を挟んで遠隔分布(ABA分布)をしている([地図Ⅱ]の



这个

A. n/l 音系

◡ n/n-

◡ l-

B. 唇音系

▲ p

C. 牙喉音系

● g-

◊ k-

◊ h/x-

D. 零声母系

■ i-

▣ a-

▣ ε-

▣ u-

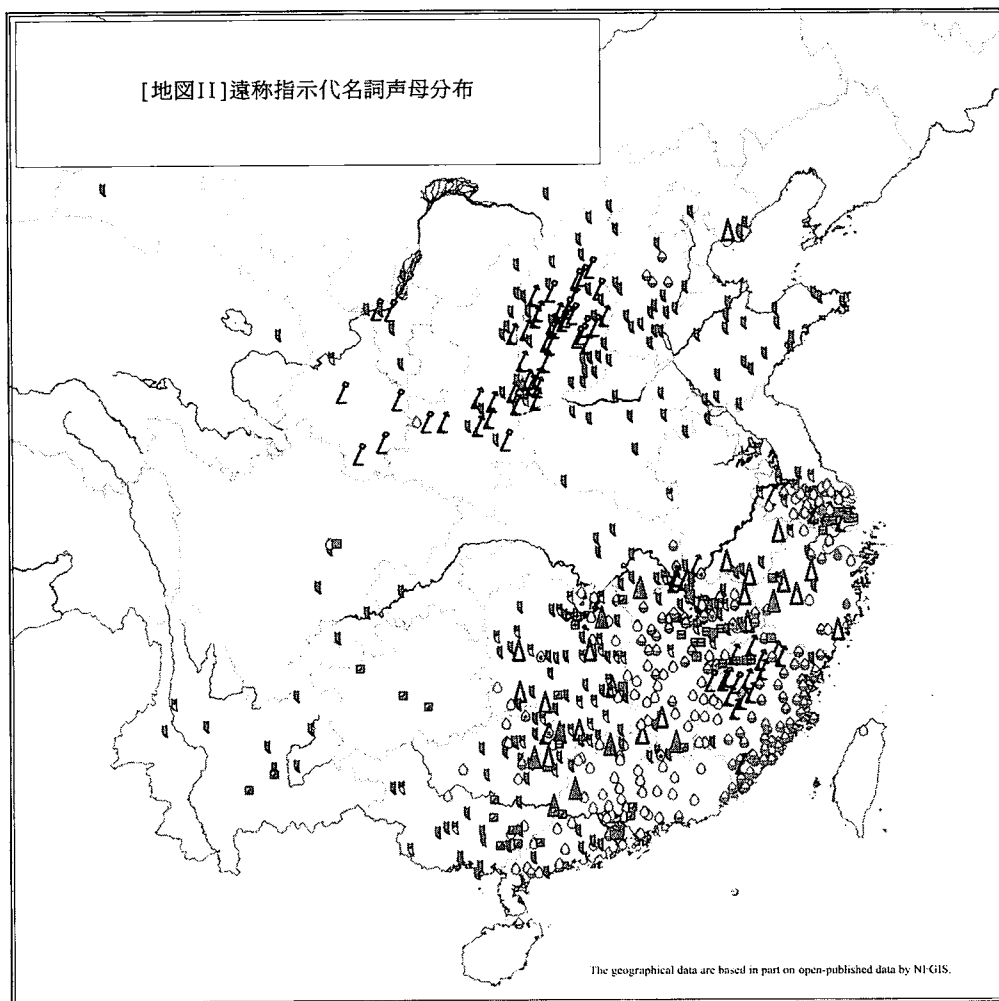
E. 舌齒音系

○ t-

◉ d-

○ ts-

◉ ts/tʃ/tɕ/z



那个

A. n/l 系

ㄣ n/n-

ㄌ l-

B. 唇音系

▲ p-

△ m-

C. 牙喉音系

○ k-

⊙ g-

⊙ ŋ-

⊙ h/x-

D. 零声母系

■ i-

▣ a-

▣ ε-

▣ o-

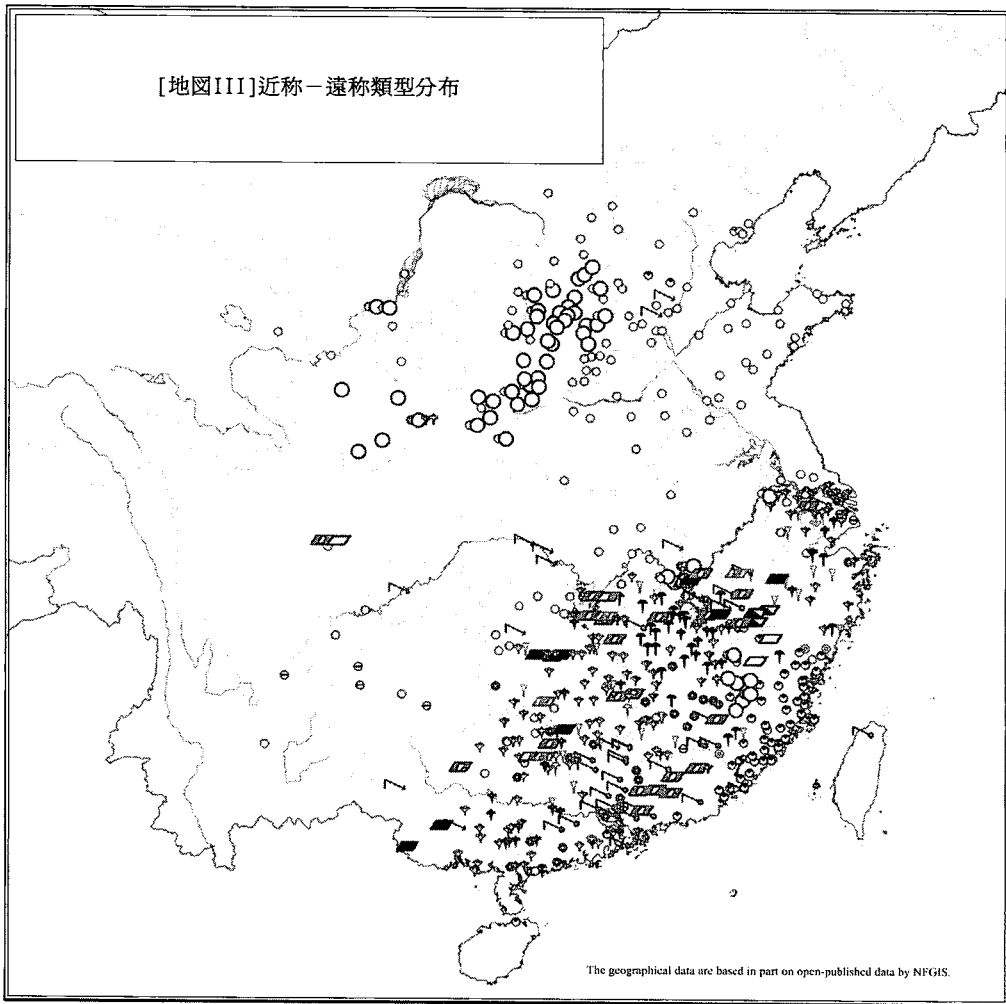
▣ e-

E. 「兀」音系

ㄨ v-

ㄨ u-

ㄨ ?u-



**A. 近称舌齒音系 X(d/tc/ʃ/tʃ/ts/t/d/z) - 遠称音系**

- A-1: X-n/l 音系
- A-2-1: X-牙喉音系 g/k/ŋ-
- ⊙ A-2-2: X-牙喉音系 x/h-
- ⊗ A-3: X-舌齒音系 t/ʈ-
- ⊖ A-4: X-唇音系 m-
- ⊕ A-5: X-零声母音系
- A-6: X-「兀」音系 v/u-

**B. 近称 n/l 音系 X(n/n/l) - 遠称音系**

- ↘ B-1: X-n/l/n 音系
- ↙ B-2-1: X-牙喉音系 k-
- ↘ B-2-2: X-牙喉音系 x-
- ↗ B-3: X-舌齒音系 t-
- ↖ B-4: X-「兀」音系 v-

**C. 近称牙喉音系 X(g/k/h/x) - 遠称音系**

- ▽ C-1: X-n/l 音系
- ▽ C-2-1: X-牙喉音系 g/k/ŋ-
- ↑ C-2-2: X-牙喉音系 x/h-
- ∨ C-3: X-舌齒音系 t-
- ∨ C-4: X-唇音系 b/p/m-
- † C-5: X-零声母音系
- ∨ C-6: X-「兀」音系 v/u-

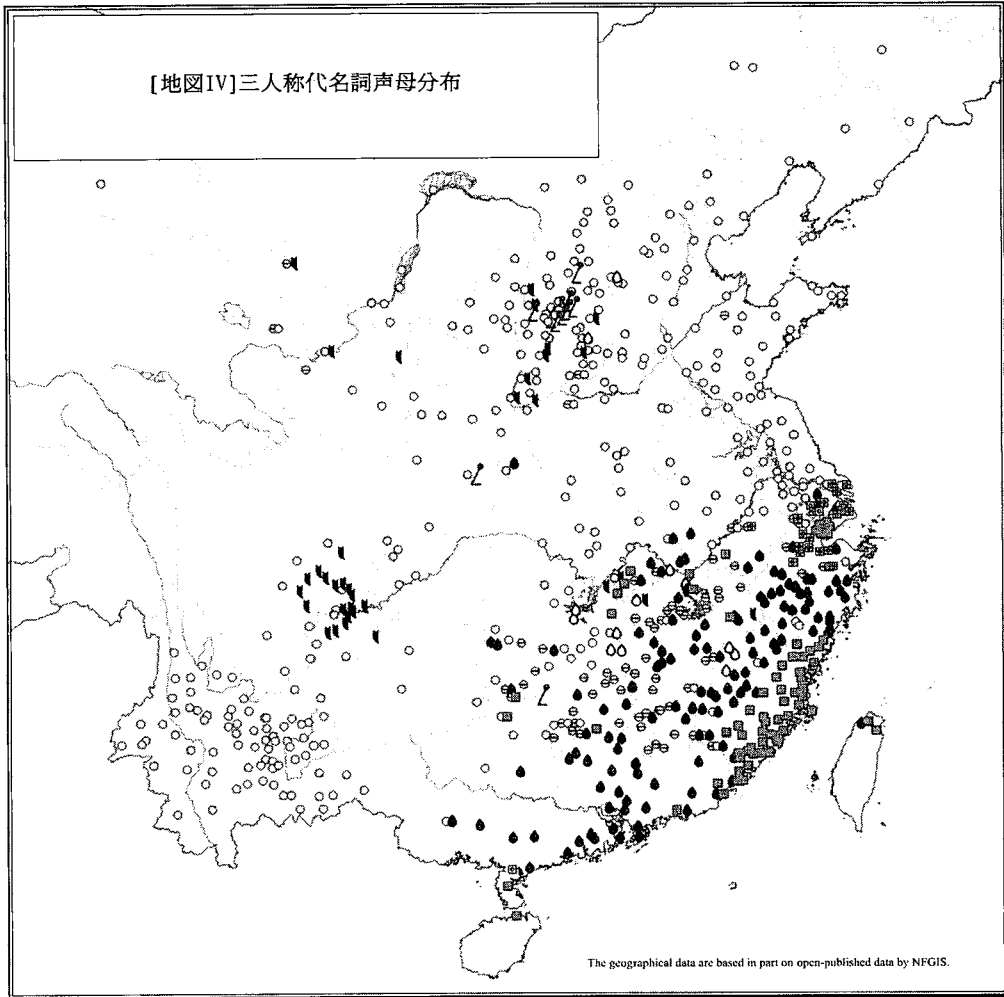
**D. 近称零声母音系 - 遠称音系**

- D-1: X-n/l 音系
- ▨ D-2-1: X-牙喉音系 k/ŋ-
- ▧ D-2-2: X-牙喉音系 x/h-
- ▩ D-3: X-舌齒音系 t/ʈ-
- ▨ D-4: X-唇音系 p/m-
- ▩ D-5: X-零声母音系

表一 【地図 III】において各分類番号及び例

近称声母 (【地図 III】の凡例では「X」と表示)	遠称声母	分類番号
<b>A：舌齒音系(dz/tc/tf/tʂ/ts/t/d/z)</b> 例： 只个[tsi kai] 即个[tsit e] 这个[tʂə kə] [fə kə][tsi ko] [tsi ko] [zə kə] 底个[ti kai] 迭葛[diʔ kəʔ]...	<b>n/l/ŋ-音系</b> 例：七个 [ɲie la]、那个 [na kə] [la kə]、恁个 [le kə] ...	A-1
	<b>牙喉音系 g/k/ŋ -</b> 例：该个 [kai ki]、咯个 [ko ko]、葛个[kuʔ ku]、 个个 [kə kə]、辮辮 [gəʔ gəʔ]、尔个 [ŋ ko] ...	A-2-1
	<b>牙喉音系 x/h-</b> 例：许个[hiet ko] [xi ki]、迄个[hit e]、□个[xi koi]、 亨个 [haN koʔ]、哈个[xa kɤ]...	A-2-2
	<b>舌齒音系 t/-</b> 例：许个 [eiəʔ kə]、□个 [teiʔ keiʔ]、骂家葛[to ko kə]	A-3
	<b>唇音系 m-</b> 例：么个 [məʔ kə]、□个[mieN kə]、莫个 [mo kə] ...	A-4
	<b>零声母音系</b> 例：伊个[i kə]、阿个[a kə]、许个[ε kə]、 □蜀个[oŋ ɕi kei]...	A-5
	<b>「兀」音系 v/u-</b> 例：兀个 [vu kə] [u kɤ]、□个[u kei] [ve kai] ...	A-6
<b>B：n/l 音系 (n/l/ŋ)</b> 例： □个[ni ke] 呢个[nei kə] [lei koi] 嘍个[nie kɤ] 这个[ɲie kə] [lia kai]...	<b>n/l/ŋ-音系</b> 例：七个 [ɲie la]、那个 [na kə] [la kə]、恁个 [le kə] ...	B-1
	<b>牙喉音系 k-</b> 例：该个 [kai ki]、咯个 [ko ko]、葛个[kuʔ ku]、 个个 [kə kə] ...	B-2-1
	<b>牙喉音系 x-</b> 例：□个[xi koi]、哈个[xa kɤ]...	B-2-2
	<b>舌齒音系 t-</b> 例：□□ [titʔ kəʔ]、□个 [teiʔ keiʔ]...	B-3
<b>「兀」音系 u-</b> 例：兀个[u kɤ]、□个[u kei]...	B-4	

<b>C：牙喉音系(g/k/h/x)</b> 例： 𪛗𪛗[geʔ geʔ] 𪛗𪛗[geʔ kəʔ] 这个[giʔ go] 箇个[ko ko] 个个[ko ko] 该个[kai kai] 许个[hi kai] □个[hi kie] ...	<b>n/l/ŋ-音系</b> 例：七个[nɿie la]、那个[na kə] [la kə]、恁个[lɛ kə] ...	C-1
	<b>牙喉音系 g/k/ŋ-</b> 例：该个[kai ki]、咯个[ko ko]、葛个[kuʔ ku]、 个个[kə kə]、𪛗𪛗[geʔ geʔ]、尔个[ŋ ko] ...	C-2-1
	<b>牙喉音系 x/h-</b> 例：许个[hiet ko] [xi ki]、迄个[hit e]、□个[xi koi]、 亨个[haN koʔ]、哈个[xa kɿ]...	C-2-2
	<b>舌齒音系 t-</b> 例：□个 [teiʔ keiʔ]、笃家葛[to ko kə] ...	C-3
	<b>唇音系 b/p/m-</b> 例：□□[pi ta]、边个[piN ko]、□个[bɛN kai]、 旁个[baN kuə]、么个 [məʔ kə]、□个[mieN kæ]、 莫个 [mo kə] ...	C-4
	<b>零声母音系</b> 例：伊个[i kə]、阿个[a kə]、许个[ɛ kə]、 □蜀个[oŋ ɕi kei]...	C-5
	<b>「兀」音系 v/u-</b> 例：兀个 [vu kə] [u kɿ]、□个[u kei] [ve kai]	C-6
<b>D：零声母音系</b> 例： □个[i ka] 乙个[ieʔ kɿʔ] 伊个 [a ta] □个[ɛ kə]...	<b>n/l/ŋ-音系</b> 例：七个[nɿie la]、那个[na kə] [la kə]、恁个[lɛ kə] ...	D-1
	<b>牙喉音系 k/ŋ-</b> 例：该个[kai ki]、咯个[ko ko]、葛个[kuʔ ku]、 个个[kə kə]、尔个[ŋ ko] ...	D-2-1
	<b>牙喉音系 x/h-</b> 例：许个[hiet ko] [xi ki]、迄个[hit e]、□个[xi koi]、 亨个[haN koʔ]、哈个[xa kɿ]...	D-2-2
	<b>舌齒音系 t/ts-</b> 例：□个 [teiʔ keiʔ]、笃家葛[to ko kə] ...	D-3
	<b>唇音系 p/m-</b> 例：□□[pi ta]、边个[piN ko]、么个 [məʔ kə]、 □个[mieN kæ]、莫个 [mo kə] ...	D-4
	<b>零声母音系</b> 例：伊个[i kə]、阿个[a kə]、许个[ɛ kə]、 □蜀个[oŋ ɕi kei]...	D-5



A. n/l系

ㄣ n/n-

B. 牙喉音系

● k/g/ŋ-

○ h/x-

C. 零声母系

■ i/e/e-

回 ?-

⊗ fi-

D. 舌齒音系

⊖ z/tw/ts/dz/tʃ/z-

○ t/d-

E. 「兀」音系

∟ v/u-



表二 藤堂明保(1952)による上古漢語における指示代名詞の分類

韻部名称 声母音系	之蒸職	脂真質	支耕錫	魚陽藥	歌元月
舌齒音系 t, d, ts, ts <sup>h</sup> , dz, ts, s	台之則載曾茲 巳時寔	此咨皆維維 唯雖(誰)實	斯只是	予余都者諸 所且	旃
n 音系	而乃迺(耐)	尼	爾爾	女汝如若	然(奈)(那)
牙喉音系 k, k <sup>b</sup> , g	其	伊(豈)		居渠巨	安焉爰, 越厥
ŋ				吾卯	言我
唇音系 p, p <sup>h</sup> , b				彼	夫

E系及び〔地図Ⅲ〕のA-6を参照)。この点については稿を改めて検討することとする。

南方ではかなり複雑な分布が見られる。

まず近称の〔地図Ⅰ〕では、福建省に舌齒音系のts/tʃ/tɕ/z(破擦音, 摩擦音)が集中的に分布し、北方のそれと遠隔分布(ABA分布)をしている(〔地図Ⅲ〕のA-2-2を参照)。また同じく舌齒音系のt(閉鎖音)が長江中流域や江西南部, 広東などに分布している。一方, 南方で最も頻度が高いのは, 牙喉音系であるが, 全体として舌齒音系に取り囲まれるように分布する傾向が顕著である。これらのことから, 近称としては舌齒音系が最も古いと推定できる。

遠称の〔地図Ⅱ〕でも南方で頻度が高いのは牙喉音系である。江蘇から湖南, 広東, 広西にかけて分布する牙喉音系k/g-, 福建一帯に分布するh/x-系がそれである。湖南, 広西, 江西北部などにn/l-系がややまとまって分布するのは, 北方方言の侵入を物語るのであろう。このほか, 唇音系が散在している。頻度は高くないが, 分布範囲は広く, 東部の浙江から西部の広西にまで及んでいる。これらのことから, 遠称としては一少なくとも南方地域では一牙喉音系と唇音系が古いと推定できる。

類型を表す〔地図Ⅲ〕を見ると, 南方では, 近称に牙喉音系をもつCタイプ(C-1~C-6)と遠称に牙喉音系をもつA-2, B-2, D-2タイプが, 江蘇から南西方向に江西, 湖南, 広東, 広西等へ連続して分布する傾向が見て取れる。これは, 南方では近称において, 舌齒音系>牙喉音系の変化が起きたことを示していると考えられる。

#### 4. 上古漢語の指示代名詞

次に, 方言地図による推定の傍証として, 上古漢語における指示代名詞を取り上げる。〔表二〕は藤堂明保(1952)による上古漢語の指示詞を近称, 遠称, 人称代名詞を問わず, 声母と韻母によって分類し, 整理したものである。周法高(1972)による近称代名詞, 遠称代名詞の分類によれば, 古代漢語では, 近称は主に舌齒音系であり, 遠称は唇音系と, 牙喉音系であることを述べている。これはまさしく方言地図の基づいた推定と一致する。

#### 5. 人称代名詞との関係

先にLyons(1977:669)に言及したが, 漢語については, 呂叔湘(1985)が漢語における人称代

名詞は指示代名詞との関係が密接であることを指摘している。同書では、上古漢語の一人称代名詞は、指示代名詞とさほど関係がないが、二人称、三人称代名詞は指示代名詞と密接な関係があり、特に三人称代名詞は遠称代名詞（「其」、「彼」など）を転用したと述べている。現代中国語の「他」は元「ほかの」の意味をもっていた語であり、遠称代名詞とは無関係である。

漢語方言における指示代名詞と人称代名詞はどのような関係にあるのだろうか。[地図Ⅲ]と[地図Ⅳ]を見ると、広東省の二人称代名詞と近称代名詞声母は同じn/l音系であり、三人称代名詞（漢字「渠」）と遠称代名詞の声母は同じ牙喉音系である。また山西省の一部地域では第三人称代名詞と遠称代名詞は、同じ「兀」系である。一方、その他の地域では、指示代名詞と人称代名詞の声母に明らかな対応関係は見られない。しかし、共時的な地図には現われないが、文献から見ると指示代名詞と人称代名詞はもっと早い時期で関係があった可能性もある。例えば三人称代名詞の[地図Ⅳ]を見ると、Cタイプの零声母系人称代名詞が、江蘇省南部・浙江省北部や福建省にまとまって分布している。指示代名詞の類型地図[地図Ⅲ]について、同地域を見れば、江蘇省はC-2-2タイプ「近称：牙喉音系/遠称：牙喉音系」であり、福建省はA-2-2タイプ「近称：舌歯音系/遠称：牙喉音系」である。一見零声母系三人称代名詞と関係がないと見られるが、零声母系は牙喉音系の声母が脱落した結果である可能性もある。また、この零声母系三人称代名詞は、『詩経』などで「伊」と表記される近称代名詞に対応する可能性がある。それが六朝以降は三人称代名詞として用いられるようになる（周法高, 1972:111）。それにともなって近称代名詞の方は別の系統へ発展して行ったと考えられる。

## 6. まとめ

小稿は博士論文のための基礎的作業の結果の一部である。漢語方言の指示代名詞の歴史的変遷に

ついて、方言地図を作成し、その分布を読み取りながら、一定の解釈を導き、その結果が文献から知られる上古漢語の指示代名詞とよく一致することを示した。また遠称指示代名詞の変化は三人称代名詞の変化と一定程度連動することを示した。

### 【参考文献】

- 藤堂明保「上古漢語に於ける指示詞の機能」『日本中国学会報』vol.4, 1952, pp.1~18.  
 呂叔湘 江藍生『近代漢語指示詞』學林出版社, 1985.  
 周法高『中國古代語法：稱代篇－中央研究院歷史語言研究所專刊之三十九』台聯國風出版社, 1972.  
 Lyons, John, *Semantics*, Cambridge University Press, 1977.